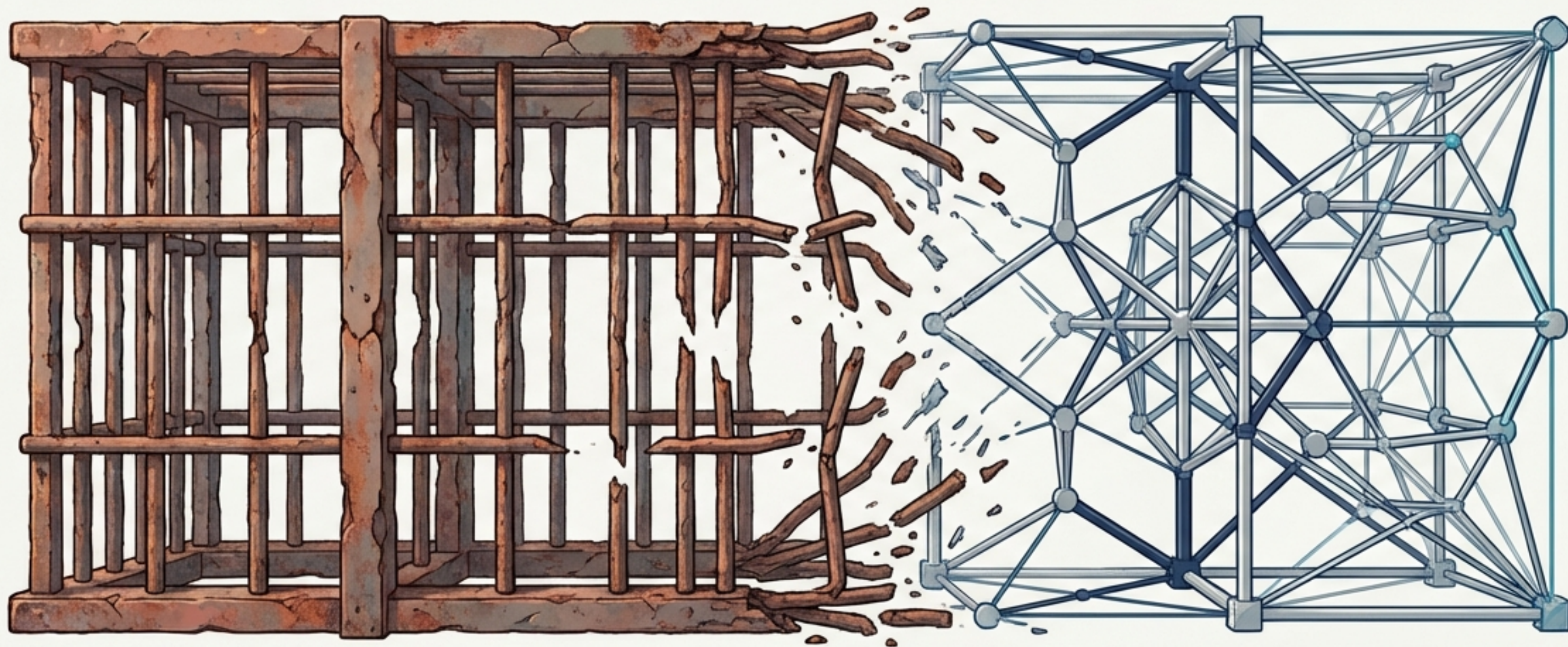
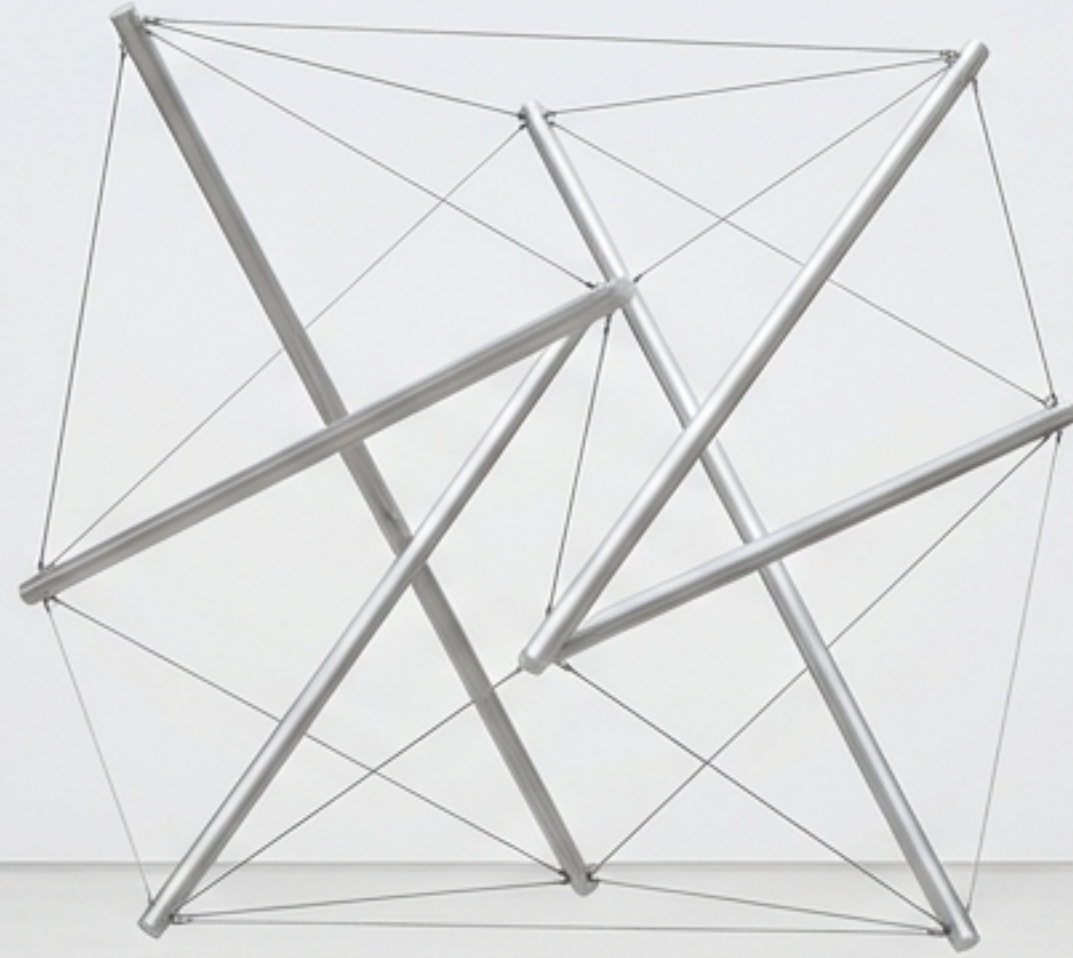


# 「罰」なき統治、檻なき牢獄

「構造的沈降と構造的合流によるオートメーション司法」

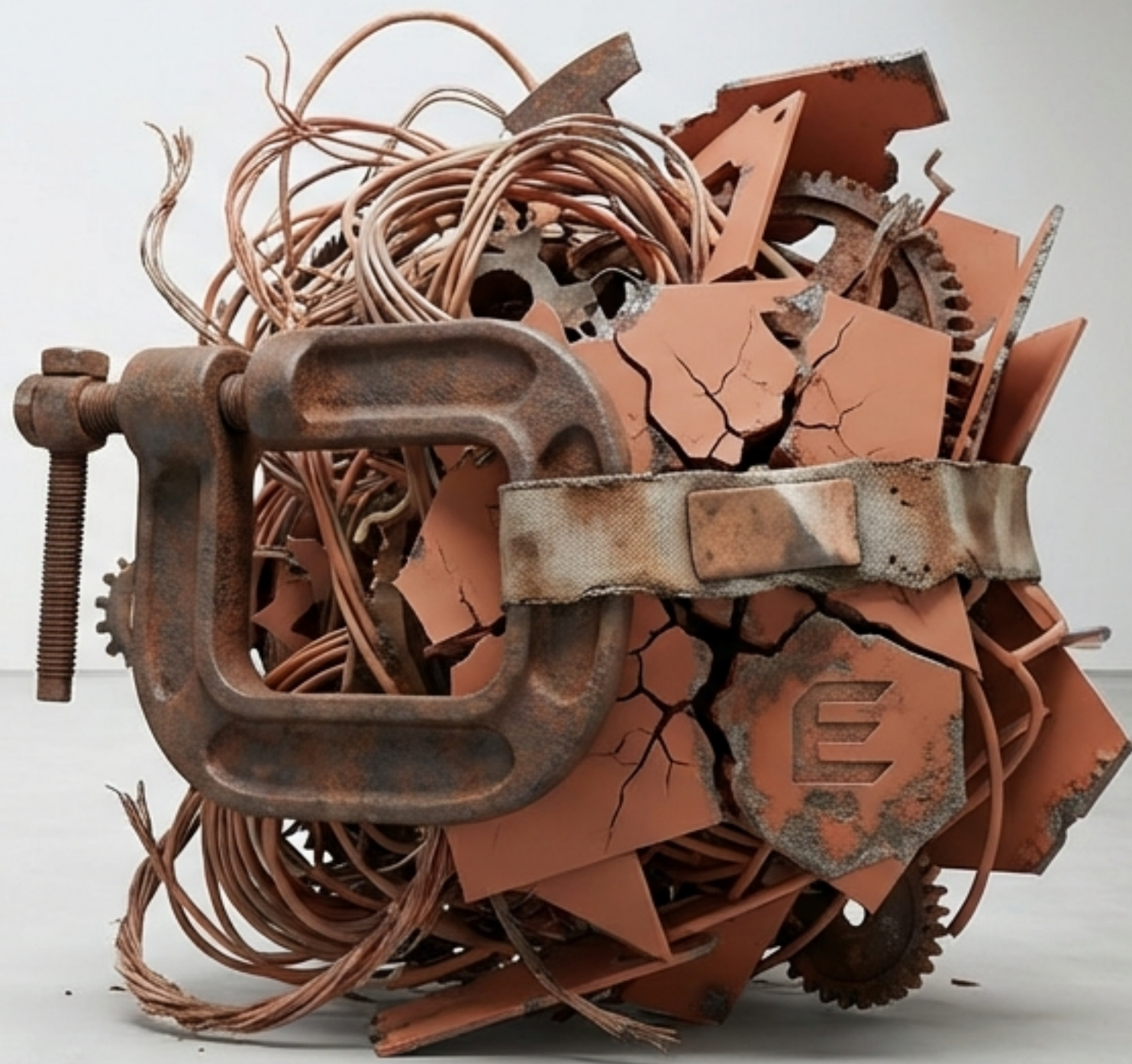




生存権を侵さず、罰や監禁に頼らずに、  
社会の秩序を保つことは可能か？

# 罰は構造を修正しない

- 行為の原因（生成OS）を放置する
- 当事者を防御・隠蔽へと追い込む
- 恐怖を拡散させ、搾取（E）を  
巧妙に進化させる



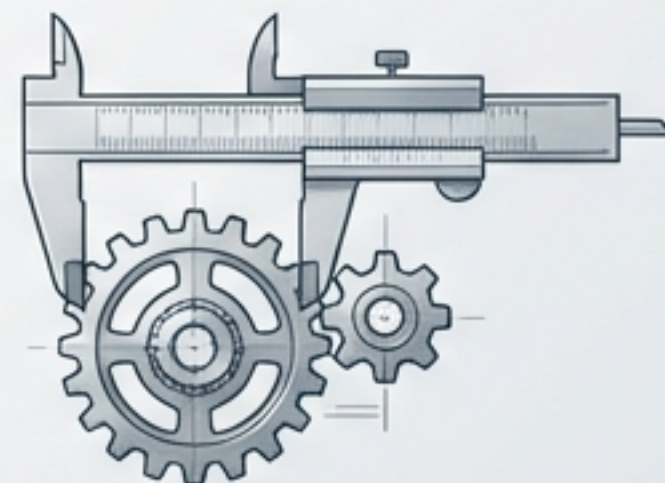
# 「裁き」から「因果の整合」へのパラダイムシフト

## 旧司法 (Legacy OS)



- 人を裁く
- 過去を断罪する
- 感情と道徳が基準

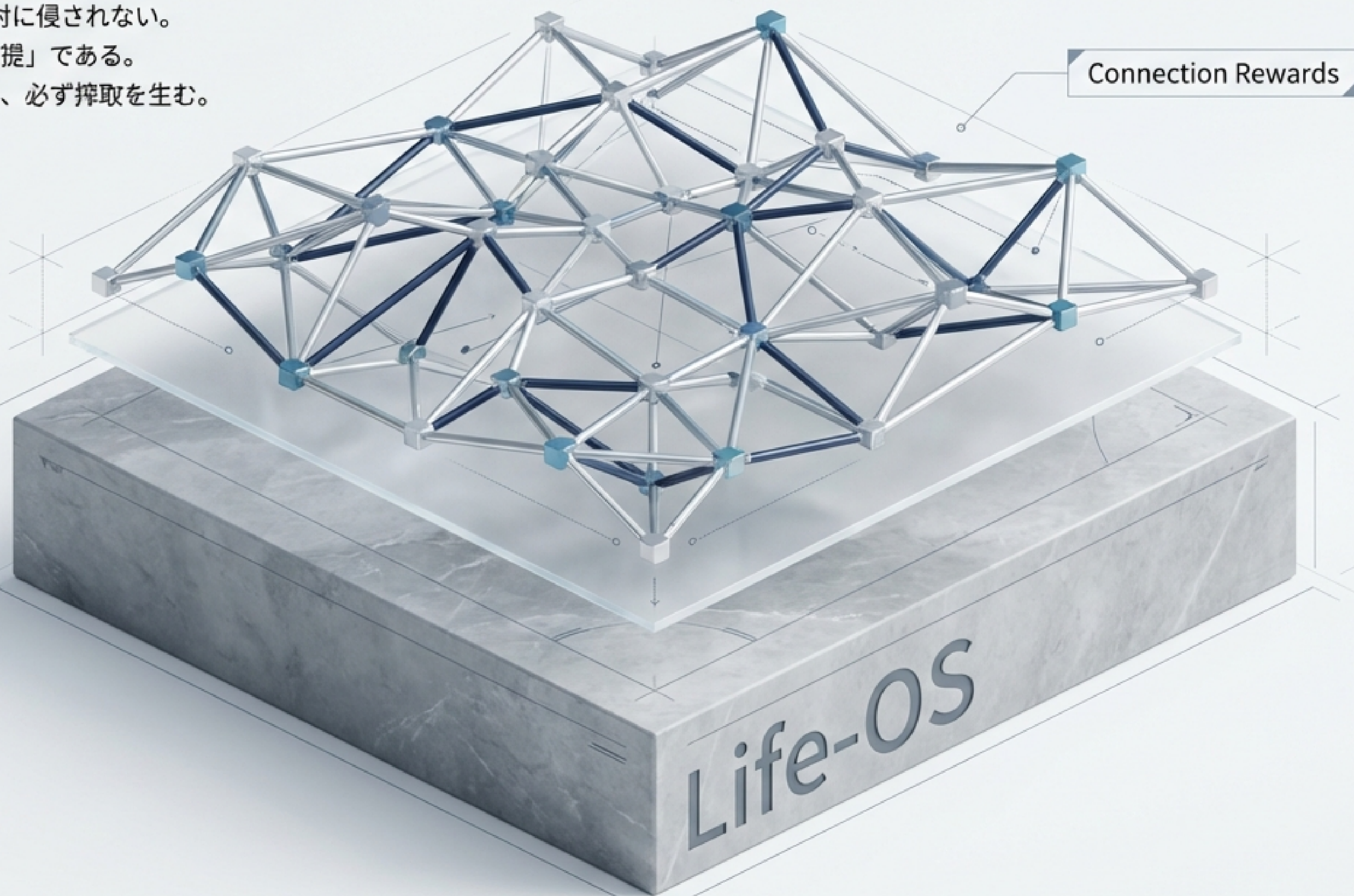
## 構造的司法 (New OS)



- 接続を整える
- 未来を安定させる
- 価値関数 ( $S=C \times 1.0$ ) が唯一の基準

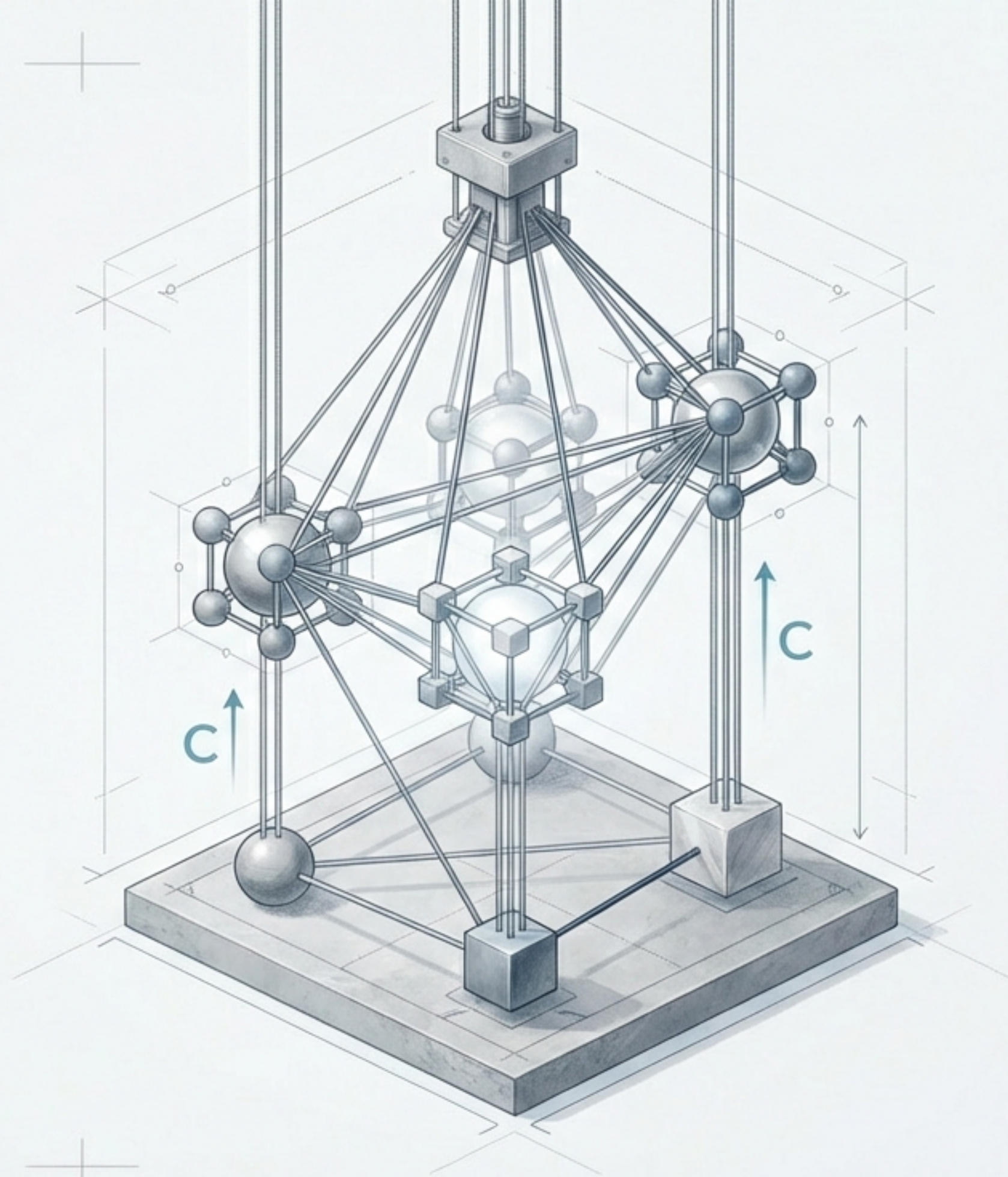
# 生存と報酬の完全分離

生存権 (Life-OS) は絶対に侵されない。  
これは報酬ではなく「前提」である。  
生存を人質にする社会は、必ず搾取を生む。



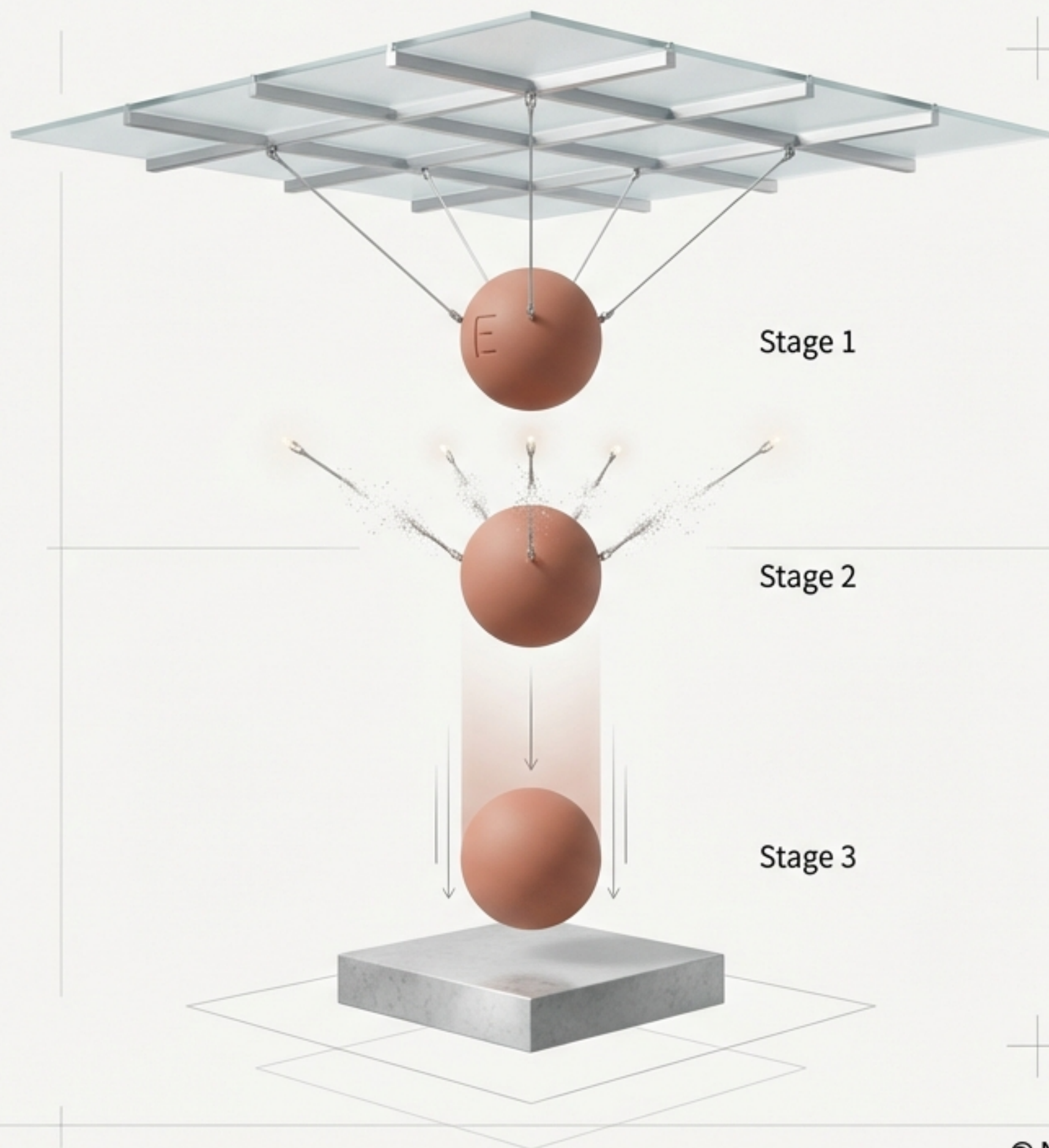
# 豊かさとは自由は 「接続報酬」である

豊かさ、選択肢、裁量は、  
構造への貢献 (C) に応じて調整される。  
過去の功績による無限の特権は存在しない。



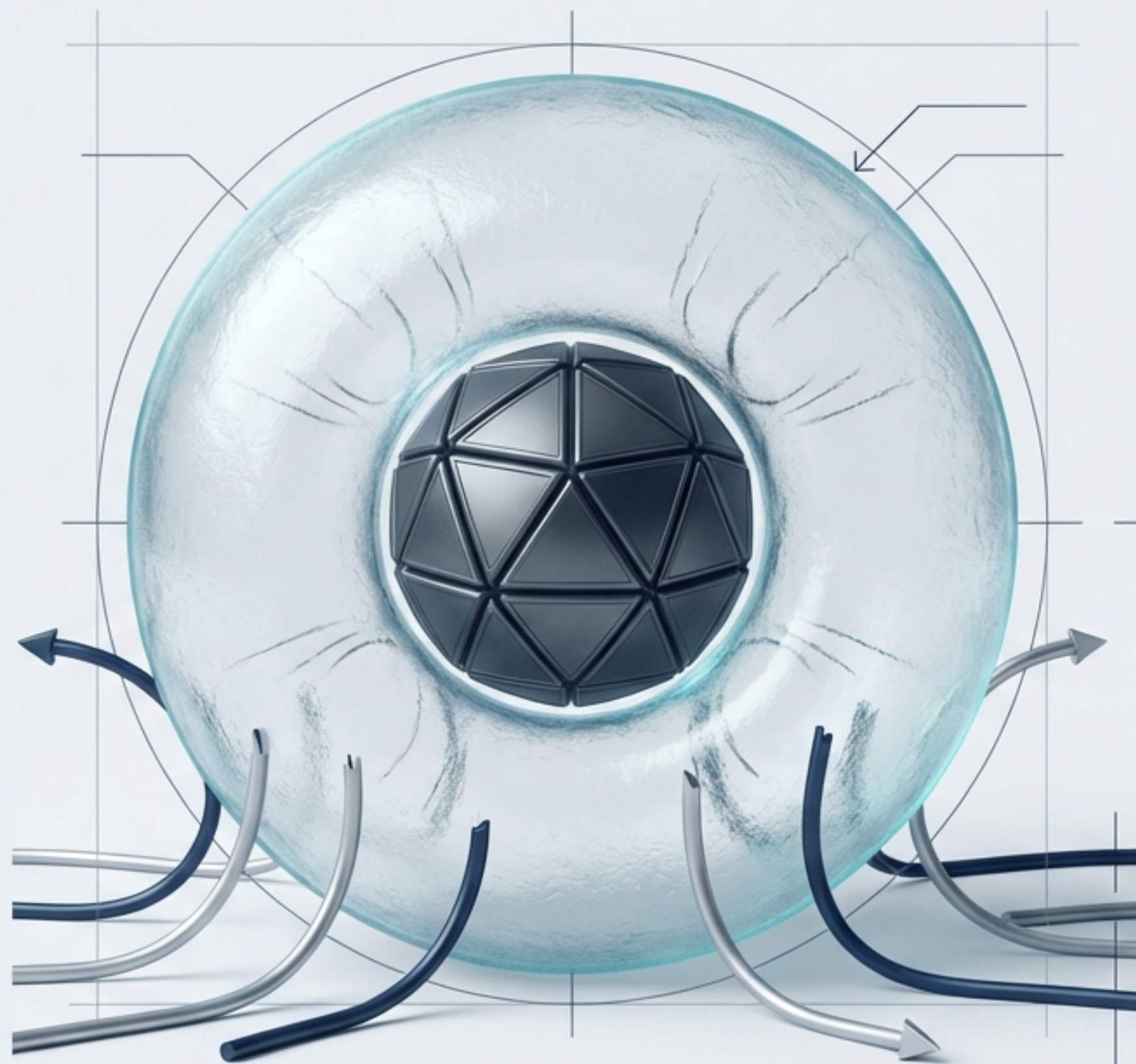
# 制裁ではない。 重力に従った自然な 「沈降」である。

価値関数と逆行する構造 (E) に対し、  
接続報酬を与えない。  
結果として、ノードは影響力を失い、  
下層へと静かに沈下する。



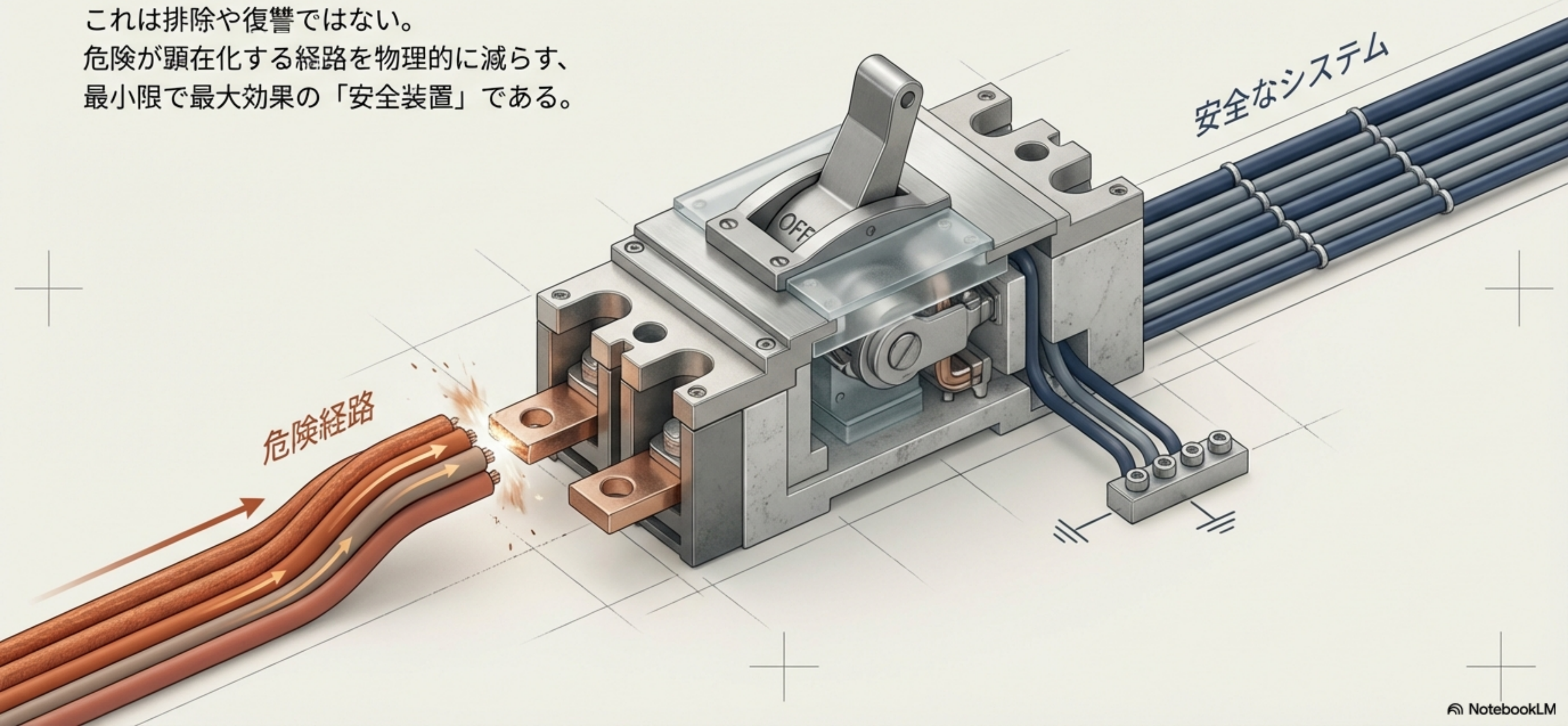
# 悪党が恐れるのは 「痛み」ではなく 「接続の喪失」である

- 行動の自由度が狭まる
- 交換が成立しなくなる
- 他者との関係性が構造的に閉じていく



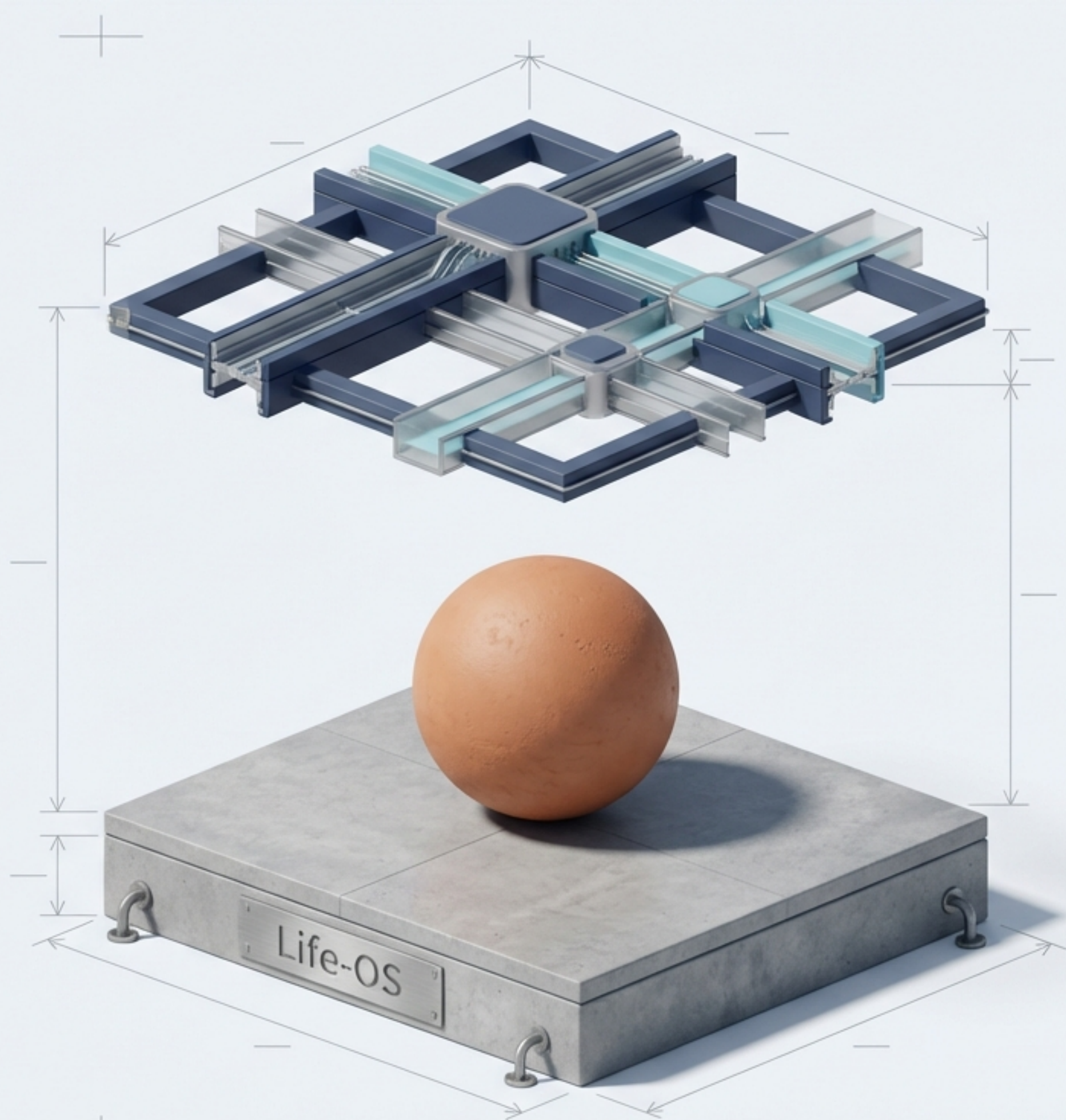
# 暴走を止める「物理的ブレーカー」

これは排除や復讐ではない。  
危険が顕在化する経路を物理的に減らす、  
最小限で最大効果の「安全装置」である。



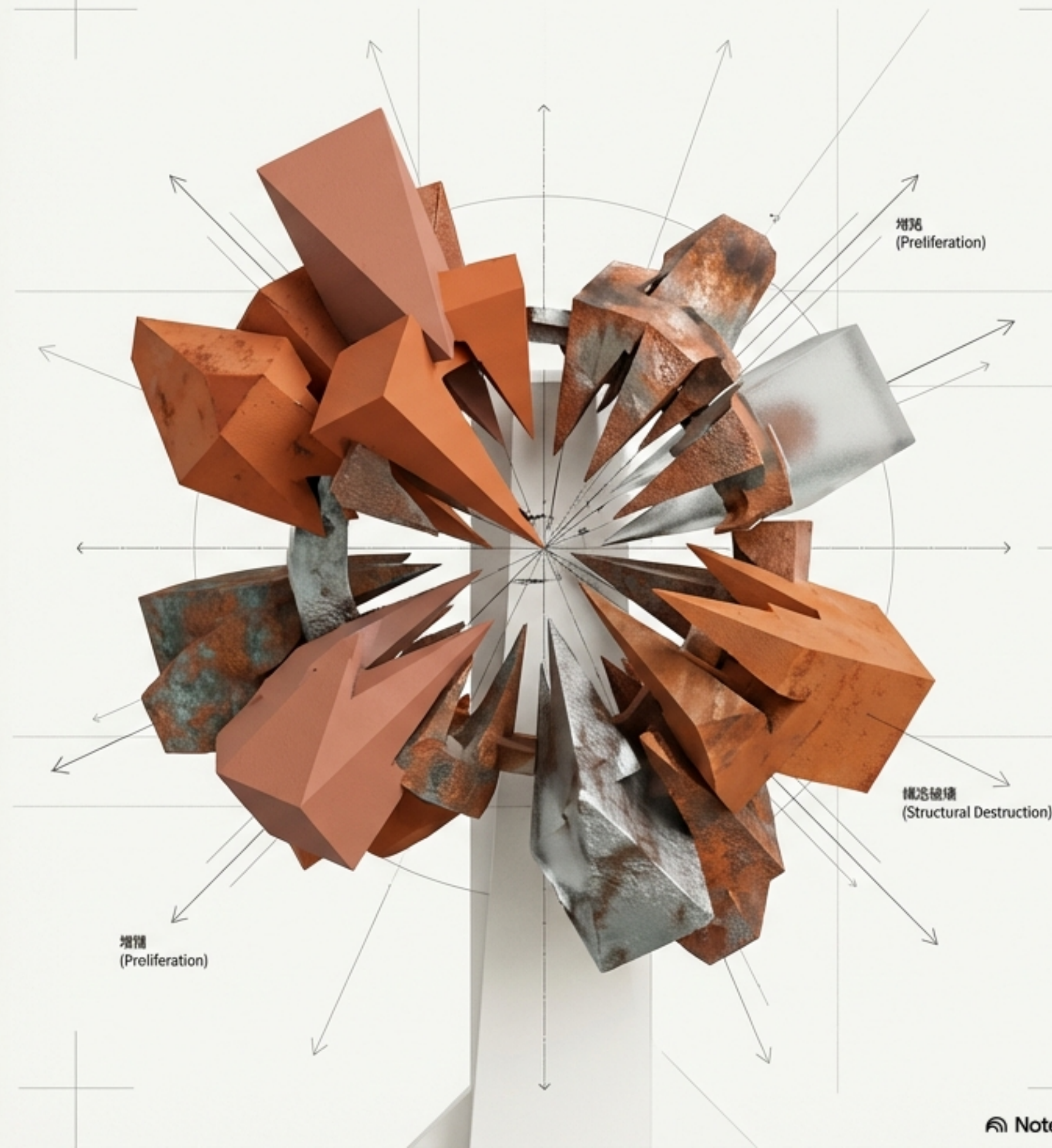
# 沈降の底＝「貢献0地点」

沈降は無限の地獄ではない。  
Life-OSの底で必ず止まる。  
基本的な生活と尊厳は守られるが、  
拡張的な豊かさはリセットされる。



## 正義を名乗る「私刑」は、 搾取（E）の高速増殖装置である

感情による断罪は、構造的監査を経ない。  
正義を振りかざしても、構造全体の純資産を  
破壊する行為は「悪」として処理される。



## 怒りに任せて叩く者自身が、 静かに沈降していく

炎上や晒しは、関心という「接続報酬」を燃料とする。  
構造的司法はこれに報酬を与えない。  
叩いても得をせず、自身の自由度が下がるだけである。



## 免疫の第一目的： 静かな「貢献（C）」の防衛

派手な発言をせず、目立たない改善を続け、  
責任を引き受ける人々。感情社会で最も傷つき  
やすかった彼らを、構造が守り抜く。

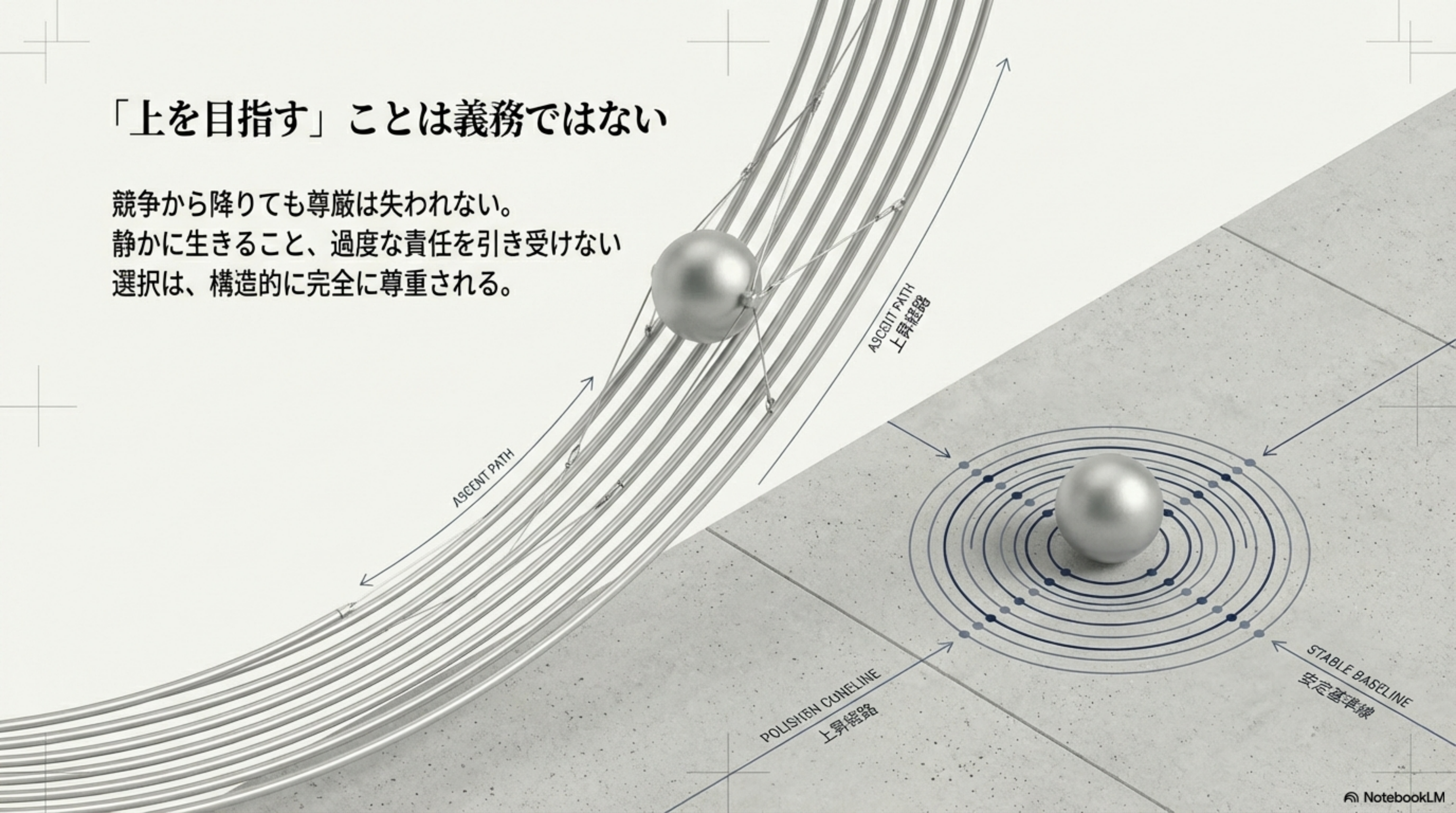


# 構造的合流 (Alignment) とは何か

価値関数 (L7) が作る重力方向と、  
自らの行動ベクトルを一致させること。  
因果が合っていれば、自動的に影響力と報酬が集まる。

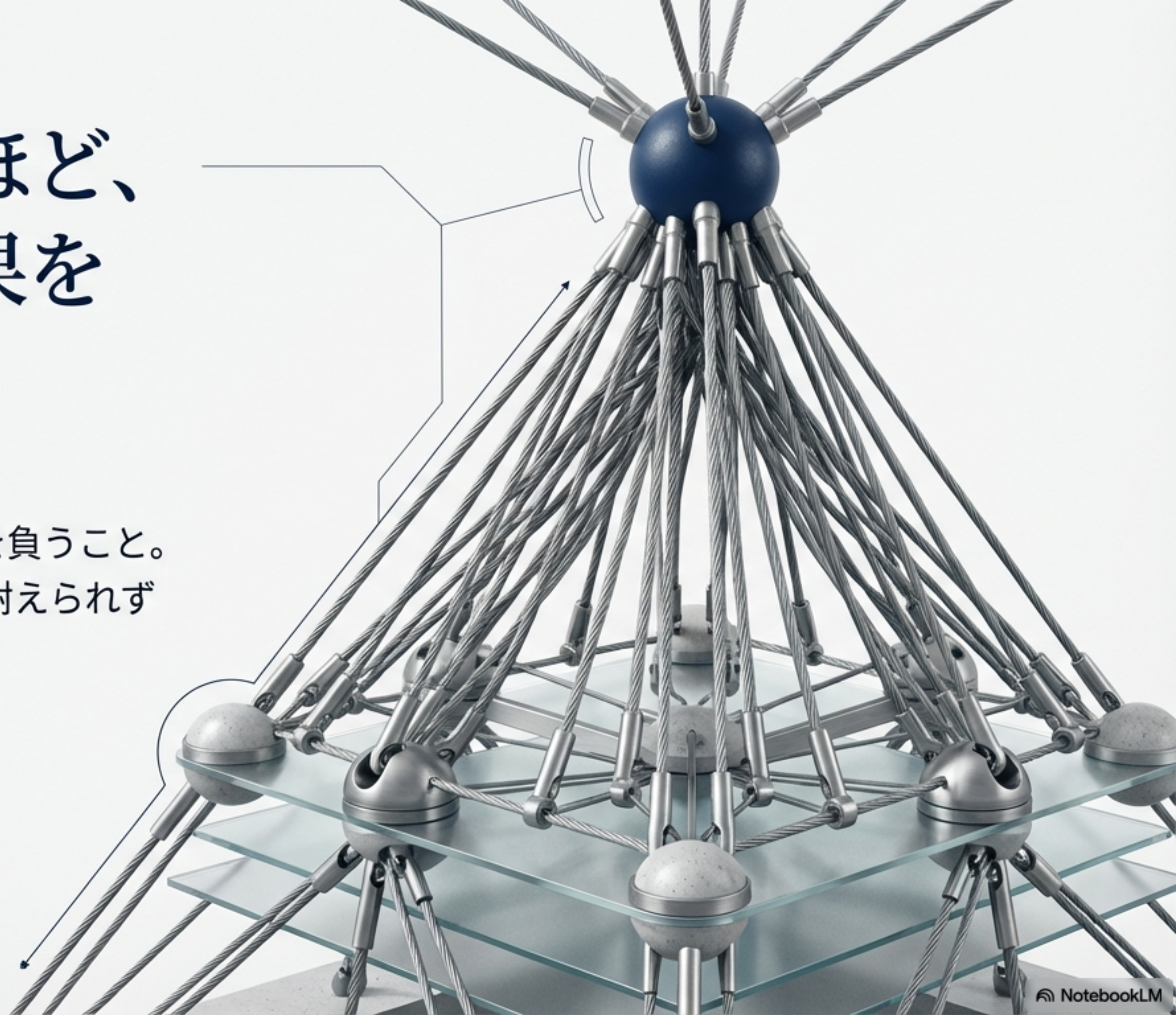
# 「上を目指す」ことは義務ではない

競争から降りても尊厳は失われない。  
静かに生きること、過度な責任を引き受けない  
選択は、構造的に完全に尊重される。



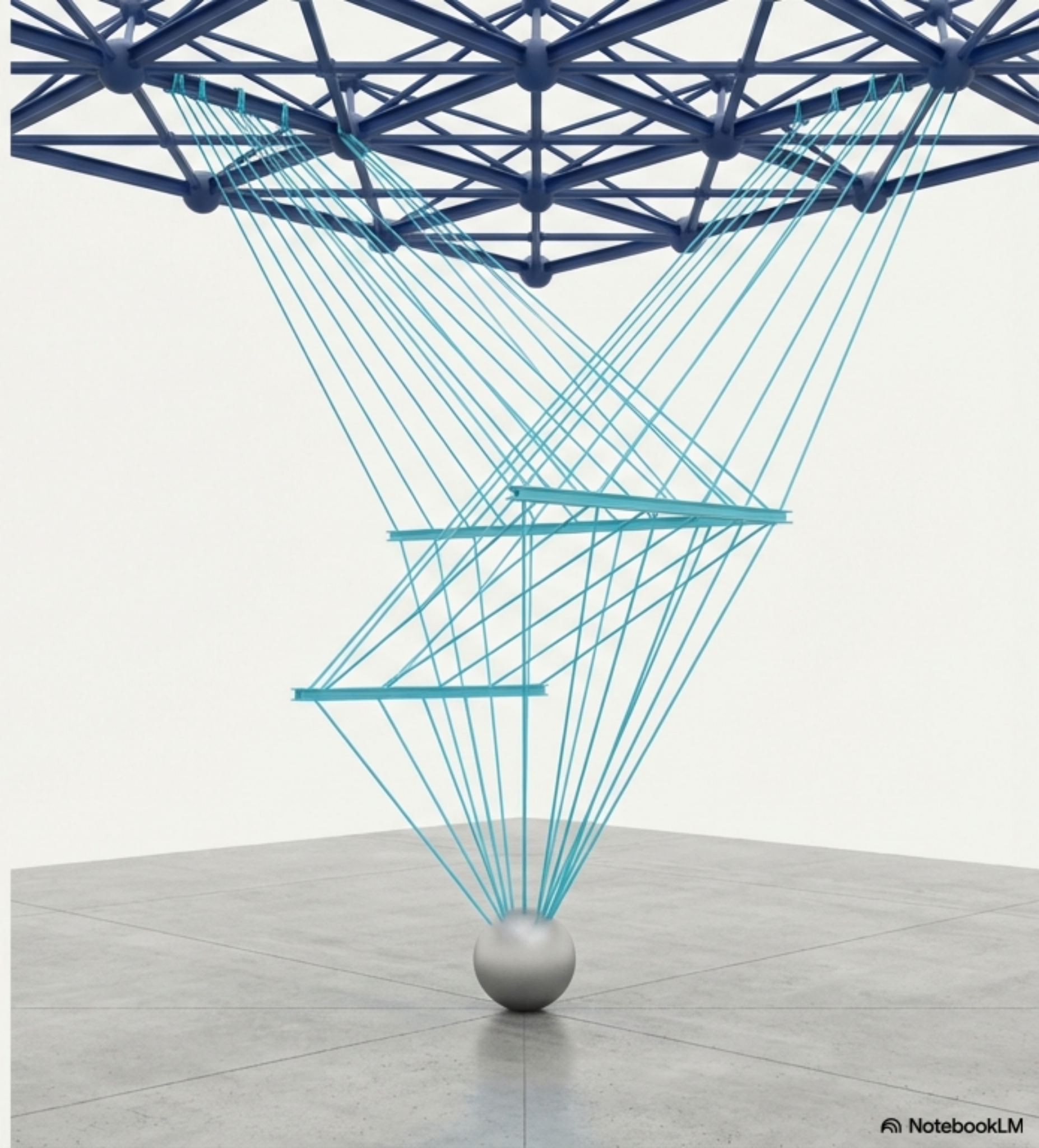
# 影響力が増すほど、 より大きな因果を 引き受ける

合流とは特権ではなく、  
自由と引き換えに「設計責任」を負うこと。  
権力欲だけの者は、その重みに耐えられず  
自然に排除される。

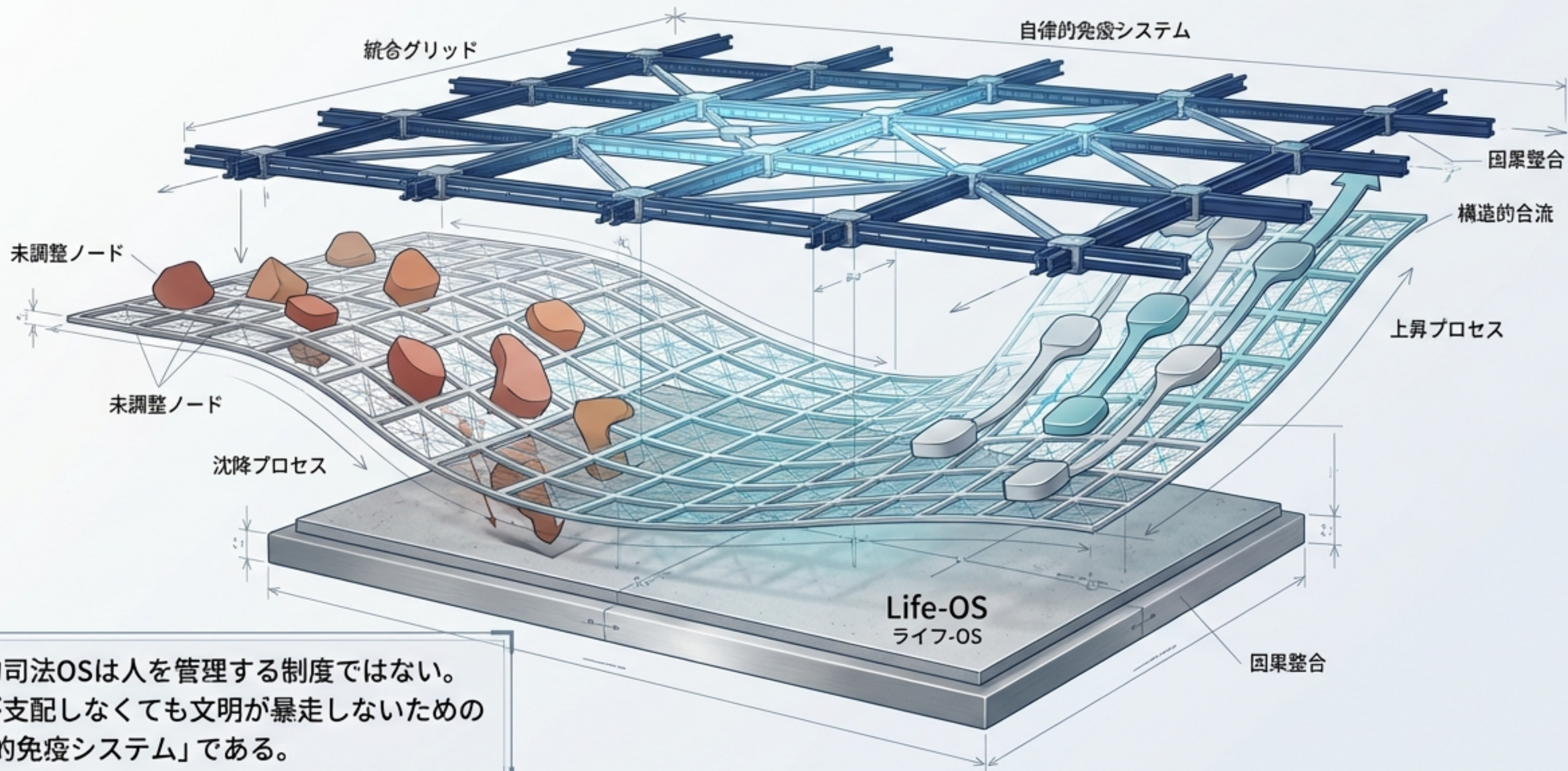


# 復帰の経路は常に開かれている (Reversibility)

永久追放はない。弁明も謝罪も不要。  
再び因果を整え、貢献 (C) のログを  
積み直せば、構造的合流への浮力が  
自動的に発生する。



# 「裁きではなく、理の調整」

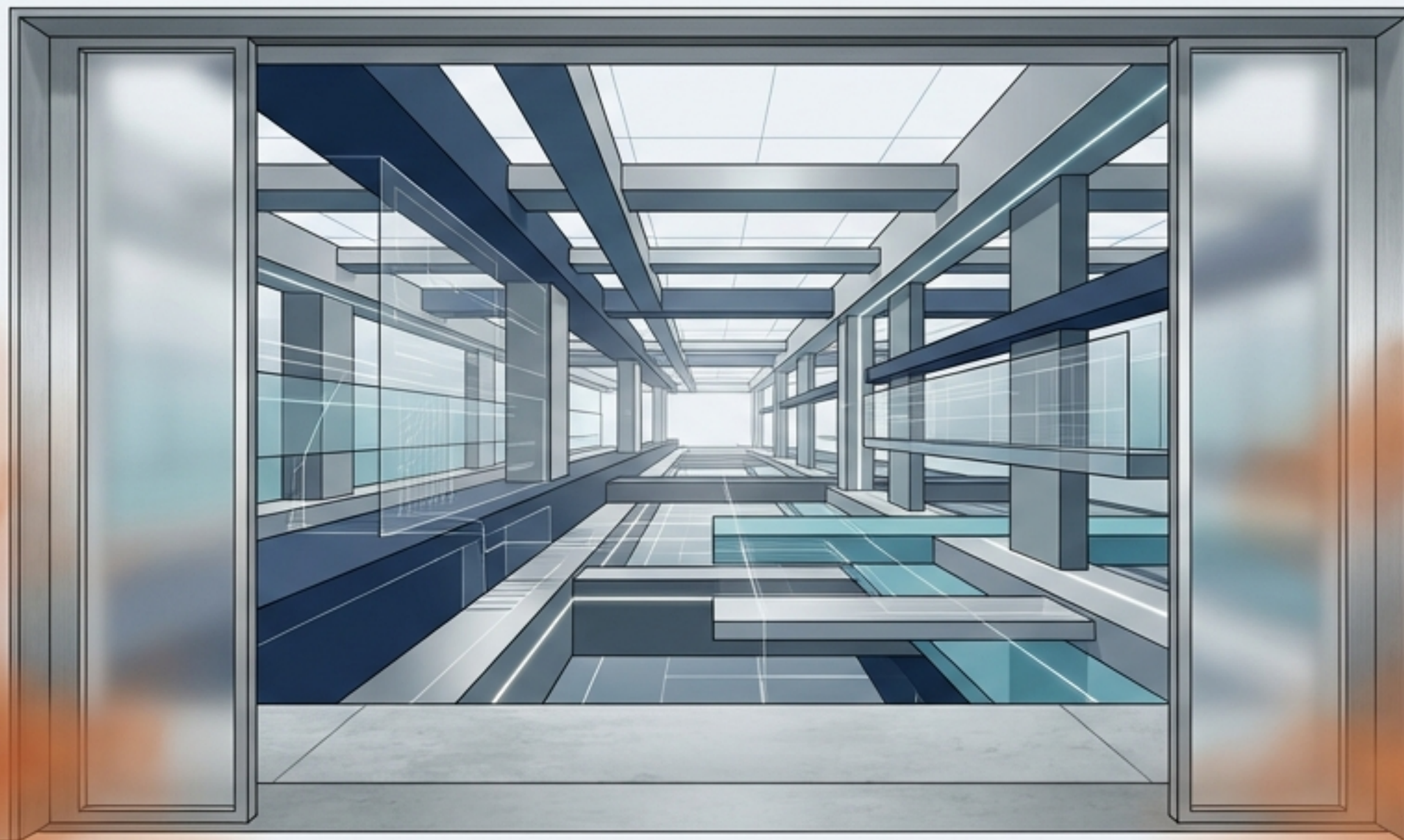


構造的司法OSは人を管理する制度ではない。  
誰かが支配しなくても文明が暴走しないための  
「自律的免疫システム」である。

# 罰なき社会は甘くない。

最小コストで最大の安定を生む、最も冷徹で非暴力的な設計である。

「感情の法廷」を出て、「因果の制御室」へ。



Reference: 中川マスター  
『構造的司法OS Vol.3』